

(件名)

「健康寿命をのばそう!!!シンポジウム」について

1 要 旨

- ・ 県民の健康寿命の更なる延伸を図るため、社会健康医学の研究推進に係る基本計画を策定している。
- ・ 社会健康医学について県民の理解を深めると同時に、昨年度、有識者会議からいただいた4つの提言（研究、人材育成、拠点、成果）について県民への周知を図ることを目的に、以下のとおりシンポジウムを開催した。
- ・ 医療関係者、健康保険組合、一般県民など、160人が参加した。

2 シンポジウムの概要

日 時	平成 29 年 9 月 20 日（水） 13:15～16:05
会 場	静岡音楽館 A O I 7 階講堂
テーマ	健康長寿のヒミツを探る “エキガク” って何だ？
基調講演	京都大学大学院 中山教授（講演終了後、パネルディスカッション参加） 「人間を守る科学・疫学から健康長寿の要因を探る」
パネルディスカッション	<p><テーマ> 「健康寿命の更なる延伸に向けた疫学研究の推進について」</p> <p><パネリスト> しずおか健康長寿財団 佐古理事長 県立総合病院 井上副院長 聖隷福祉事業団 鳥羽山部長 健康福祉部 山口部長</p>

3 シンポジウムの満足度

	大変満足	満足	やや不満	不満
基 調 講 演	35.7 %	58.9 %	4.5 %	0.9 %
パネルディスカッション	8.9 %	64.4 %	22.8 %	4.0 %

4 参加者の意見（アンケート結果、回答者数 116 人）

(1) 健康寿命の延伸について県に求める取組（複数回答）

- | | | | |
|--------------|-----|-----------|-----|
| ① 健康プログラムの普及 | 49% | ① 生きがいづくり | 49% |
| ③ 食生活の改善 | 35% | ③ 居場所づくり | 35% |
| ⑤ 最先端の研究 | 33% | ⑤ 健康経営 | 33% |

(2) 疫学研究の推進に期待すること（複数回答）

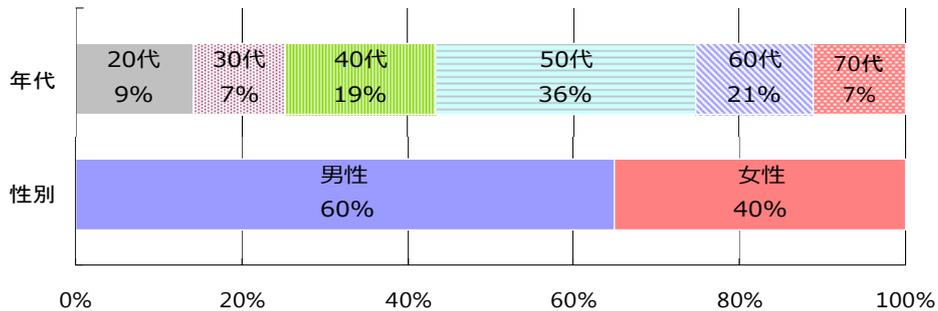
- | | | | |
|--------------|-----|---------------|-----|
| ① データの「見える化」 | 55% | ② 予防医療を含む健康管理 | 49% |
| ③ 健康長寿の要因分析 | 46% | ④ 医療水準の向上 | 34% |

(3) 自由記入意見

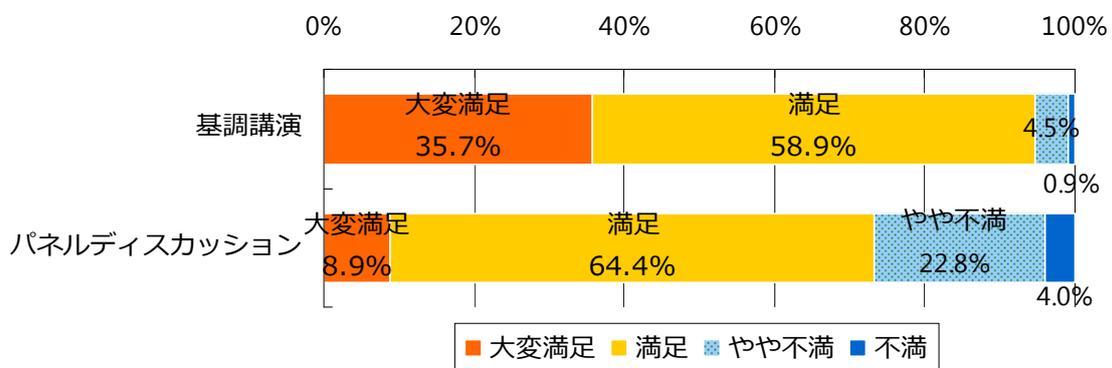
- ・ 県が社会健康医学に取り組んでいることは重要だと思う。県内外の有識者を幅広く集めて検討する取組も貴重だと思う。
- ・ 基調講演は内容も分かりやすく、社会健康医学の取組を知ることができ有意義だった。
- ・ 「疫学」という学問が健康長寿を支える重要性を知ることができた。
- ・ 将来年老いたときのことを考え、元気なうちから、自身の健康づくりに積極的に取り組むことが大事であると感じた。
- ・ 長寿でいるためには、自分自身が健康を意識することが大切と感じた。
- ・ パネルディスカッションは、時間が短かった。もっと、各先生の議論を聞きたかった。

<参考>アンケート集計結果 回収 116 人／出席 160 人（回収率 72.5%）

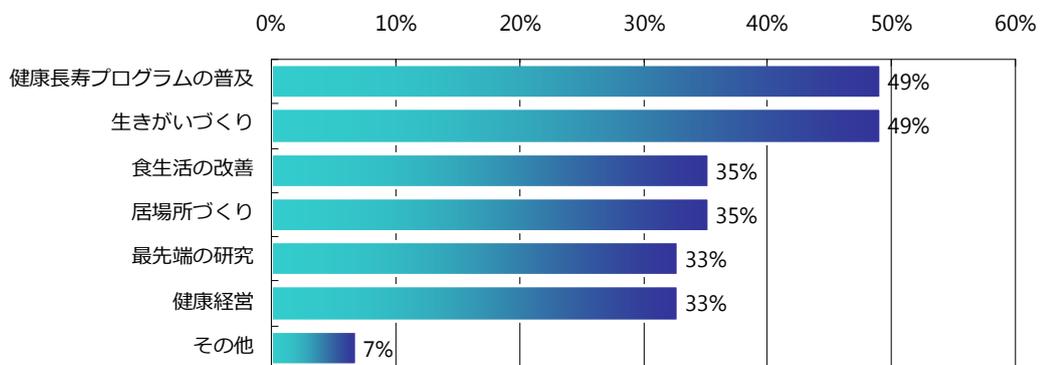
(1) 年齢・性別



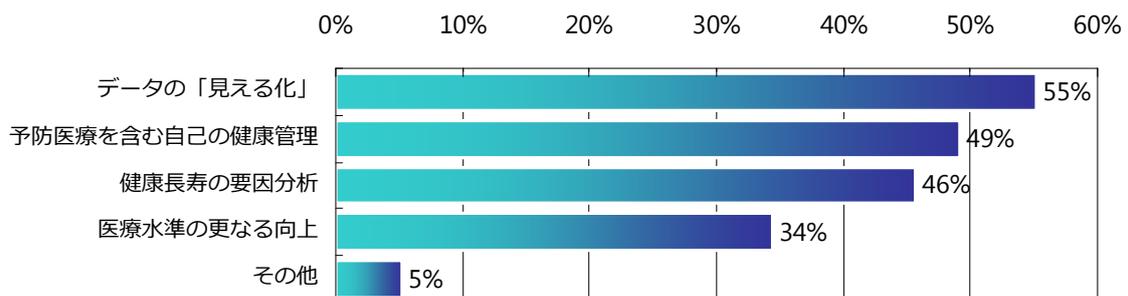
(2) シンポジウムの満足度



(3) 健康寿命の延伸のために、県に求める取組



(4) 疫学研究の推進に期待すること



【静岡新聞（朝刊）】

健康長寿疫学が必要

県シンポで
パネル討論

県民の健康寿命の延伸を目指し、県が研究を進めている「社会健康医学」の理解促進を目的にしたシンポジウムが20日、静岡市葵区内で開かれた。有識者や医療関係者、県幹部らが健康寿命延伸の鍵を握るとされる「疫学研究」を題材にパネル討論した。疫学は、人間にみられる病気や健康に関する因果関係を集団統計などによって解明し、予防や治療に役立つ研究分野の一つ。パネル討論では、健康診断のデータ解析や生活習慣病患者の行動分析などを通じて、疫学研究を深める必要性が指摘された。

中山健夫京都大学大学院教授が「人間を守る科学 疫学から健康長寿の要因を探る」と題して基調講演も行い、医療ビッグデータを用いた健康リスクの分析調査や、マイナンバーと医療・健康情報の一元化など疫学研究の可能性を紹介した。

男女ともに全国トップクラスにある本県の健康寿命を伸ばすため、県は2017年度社会健康医学の具体的な施策を盛り込んだ基本計画を策定する方針。本原佑京都大学高等研究院特別教授を委員長とする基本計画策定委員会の提言を踏まえ、計画作りを進める。



県民の健康寿命延伸に向けて討論するパネリスト
＝20日、静岡市葵区